

# Charms of the Japan Pavilion

Harmony of the Hearts, Harmony of the Skills



## 大人気！日本館の魅力を語る

### 片瀬裕文

経済産業省・大臣官房審議官  
(国際博覧会担当)

上海万博の開幕初日には4時間待ちの行列ができたほどの人気を誇る日本館。期待を大きく上回る評判の秘密を、経済産業省・大蔵官房審議官・片瀬裕文氏にわかりやすくご説明いただいた。

本日は日本館のお話があるだろうか

えると楽しみにしてきました。日本館は、

開幕前から期待度かなり高いパビリオ

ンのひとつでした。私は万博が開幕して

から、早速日本館を見にいきました。そこ

で、まず館内の入り口に立っているアテン

ダントの方たちの丁寧な所作に感動しま

した。そしてさらに注目したのは、日本館

だけ待ち時間がつきりわかるような表

示がでていたことですね。列のここまでは

1時間待ち、ここまでは2時間待ち、とい

う時間提示がはつきりしていて、そういう

ノウハウを持っているのが日本の信用の

高さにつながっているのだと思いました。

内部の展示物も、ロボットやライフウォー

ルはすごかったですね。中国人に好評の日

本館ですが、私はもともと多くの中国

の文化人や科学者、メディアの人々を日

本館にお連れして、その素晴らしさを知

ってもらいたいと感じました。まずは審議

官から日本館の見所をご紹介いただけま

すか？

今回の万博の日本館のテーマは「心の

和 技の和」です。心と技は両者とも欠

かせないものなのですが、まず「技」の部

分では、日本の先進的な技術を多くの方

に見ていただきたいですね。ロボット、そ

れから未来の壁はこうなるべき、というの

を実現させたライフウォールのインタラク

ティブテレビ、笑顔を認識して写すカメラ、

そして生活に欠かせないきれいな水をつく

る浄水装置、電気自動車、発電床などと

いった環境技術です。他のパビリオンでは

映像での技術の紹介が多いですが、日本

館ではできるだけ実物を見ていただくこ

うことで、ロボットもバイオリンを弾く

実演を行いますし、ライフウォールも、例

えばバスケットボールのシュートをしてみ

せるなど、体験型で展示を行っています。

また、日本の四季を紹介するため、実物

そっくりの桜を再現して、その下に茶室

を置いています。茶室も実物を使用し、

日本の文化を紹介しているのです。

「心」の部分で、我々が伝えたいのは、日本も今から40年前、1970年代は公害大国といわれていたということです。それは経済が発展する際に避けて通れない過程であったのかもしれませんが。しかしこのままではいけないと、日本は時間をかけてこの問題を克服してきたわけです。その際に、もちろん技術も重要ですが、さらに大切なのは、人の取り組み、気持ちなのです。例を挙げますと、以前、名古屋の藤前干潟は、ゴミの埋立地になる計画がありました。しかし住民の反対により自然のままに残されることになったのです。ところが、反対だけではゴミをどこに持っていくかの問題が残ります。そこで、名古屋市をあげてゴミを減らす行動がおこされたのです。その結果ゴミが3割減りました。

それはすごいことですね。

そうですね。ゴミが減ったから、埋立地を設ける必要がなくなったんです。埋立地を他に探そうということではないんですね。藤前干潟は今、世界の渡り鳥保護条約の指定地になっていて、ここで渡り鳥が休んでまた飛び立っていきます。

「心」の部分のもうひとつは、国際的な協力です。特に日本と中国は、これからもっと協力していかないと世界の環境問題を救えないと思います。そこで、日中の協

力により絶滅を防いだ朱鷺をとりあげ、技術と芸術をミックスした能と昆劇のコラボレーションによるミュージカルの公演を行います。舞台は朱鷺をシンボルに、能と昆劇で日本と中国の協力、伝統と先進技術で技と心の和を表しているのです。会期中に6600回の上演を行う予定で、ギネスに申請しようかとも考えています。とにかくすべてが生、ライブで行われています。これは今まで日本の万博出展にもなかったですし、ほかの国家館も映像がメインですから、非常に楽しんでいただけて



いるようで、これも人気の秘密であると思います。

朱鷺に関しては、日中政府間でも協力していますが、実際やっているのは3人を中心とする人と人との協力なんです。席さんという中国の朱鷺保護センターの主任と、佐藤さんという佐渡島の高校の先生。もう一人は近江さんでトキ保護センターの所長さんです。この三人が協力して朱鷺の保護に尽力しています。これからは国と国も当然ながら、人と人、民間レベルでの協力が重要ですね。このこともメッセージに込めています。

民間といえば、愛・地球博で皆勤賞の山田さんが、今回上海万博も家族で協力し合ってまた皆勤賞を目指しているというニュースが、今中国の各種メディアで取り上げられています。ご本人の情熱に感銘をうけ、日本館、日本産業館も協力をしているようです。日本人がどれだけ万博に対しての熱意を持っているかの表れの一つとして中国人も注目しています。

今日本館には140名のアテンダントがおり、皆さん仕事をやめて参加される方が多いんですよ。やはり万博に対する思い、人生で上海万博に参加したいという経験をつくりたいという思いが強いですね。

官民協力といえば、今回の万博で日本企業で上海万博全体の唯一スポンサーに

なったのは資生堂でした。中国からの後援の気持ちとして、今年6月末から7月いっぱいまで、資生堂の展示会のために、上海美術館が利用できることになりました。この美術館は国営ですから、一般的には一企業にはお貸ししないんですよ。万博への協力と同時に、資生堂が中国で行っている、様々な活動、例えば、学校をつくらせ、子供たちに植林の機会をつくらせたりなどという貢献に対してのお返しですね。

今回は、日本館へも多くの企業に資金、技術、人の面で協力していただいています。例えば人の面では日本館の技術的な運営を滞りなくすすめられるのは、企業から派遣された技術者が数十名常駐しているからなのです。例えば朱鷺をテーマにしたミュージカルも、6600回の上演を行うとして、その回数分だけ技術者が後方で活躍しているのです。そういう意味では日本館は企業の熱意に支えられています。企業として中国が重要な市場であるということはもちろんなのですが、そればかりでなく、日中の将来に向けての協力は日本の産業界全体にとって非常に重要だということだと思います。

これから益々日本館のアピールに力をいれていただき、たくさんの方に日本館に訪れていただきたいですね。

(今回の対談は、社団法人先端技術産業戦略推進機構 三浦宏一理事長のご協力により実現しました)